



PDCA化とIR体制による教育の質保証

～イノベーションを支える実践型技術者育成～

本学の「PDCA化とIR体制による教育の質保証」が平成22年度「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択されました。

全国の国公私立大学等から298件の申請があり、30件が採択されました。

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」は、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的とします。

平成22年度「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」

PDCA化とIR体制による教育の質保証 ～イノベーションを支える実践型技術者育成～

趣旨

21世紀の今、科学的知の創造の成果が、技術の形を介して社会経済的価値創造、すなわち「イノベーション」として社会に深く浸透し、経済的価値だけでなく、社会システムにまで複雑・多面的に及んでおり、これを支える技術者は、個別の専門工学能力の基盤として、「社会と技術の連関に対する理解・判断力と行動力」＝「工学リベラルアーツ」の素養を持つことが社会と産業から求められています。

一方、工学が学術として益々細分化する潮流の中で、工学を学ぶ学生のこの「工学リベラルアーツ」の素養が弱体化し、「専門教育の理解と体得」の面でも、工学教育の空洞化問題が顕在化しています。

資源に乏しい日本が、高付加価値創造型ものづくり立国に活路を拓くためには、イノベーション創出を支える技術者育成を目指した工学教育の実質化が必要であるが、その体系化、効果の定量的評価、およびその運用体制など解決すべき課題が多い。

本取組は以上の現状を踏まえ、本学の教育目標である「社会に学び社会に貢献する技術者」育成に必要な学士力の確保・向上と、これを支える教員の組織的な資質向上を図ります。

概要

1. 学士力の確保・向上<三つの方針の明確化・具体化による教育プログラムのPDCA化で学士力を保証>

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの3ポリシー（三つの方針）における大学としての全体方針と各教学部門での方針を、下記のように策定・具体化し、定量的評価が可能となるような目標アウトカムズ（成果）を設定することにより、PDCAサイクルによる教育プログラム全体の検証・改善を行えるシステムを構築します。



・ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）

本学の教育目標である「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」に必要な具体的学士力を示す定量的アウトカムズ（成果）の設定と、その卒業時の達成保証

・カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

アウトカムズ（成果）設定と、その評価インフラとしての電子ポートフォリオシステム（学生自己開発認識システム）の導入による、教育プログラムの PDCA 化・見える化により、既存教育プログラムの改善点を明確にし、目標アウトカムズ達成可能な体系的カリキュラムを構築

・アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

カリキュラムと整合性のあるポリシーの設定

2. 教員の組織的な資質向上＜教育プログラムの PDCA 化と工学教育改革・実質化を企画・実行する全学組織の整備、これを中心的に担う教職員の育成、および全学の教員の教育力向上＞

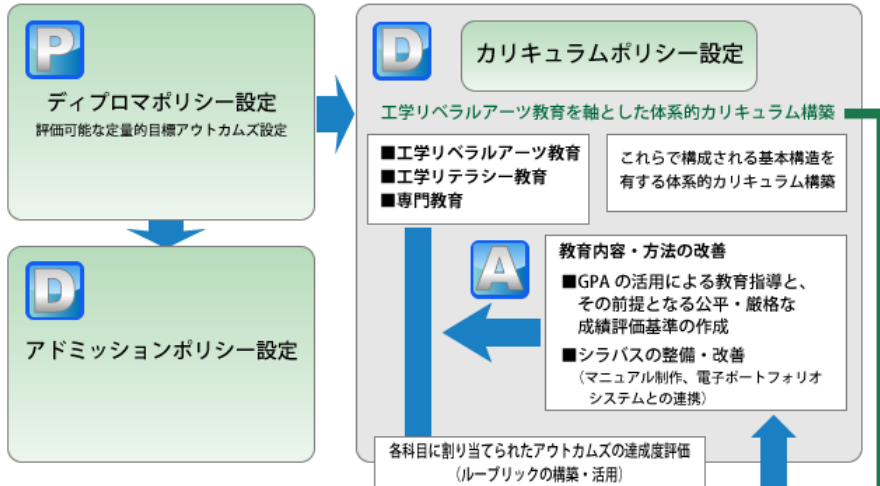
電子ポートフォリオシステム（学生自己開発認識システム）と全学 FSDS 改革推進委員会の構築、および、これを中心的に担う教員の育成による、全学教学 IR 体制の整備

（IR：Institutional Research データベース構築と情報を収集・整理・加工する体制を組み合わせたもの）

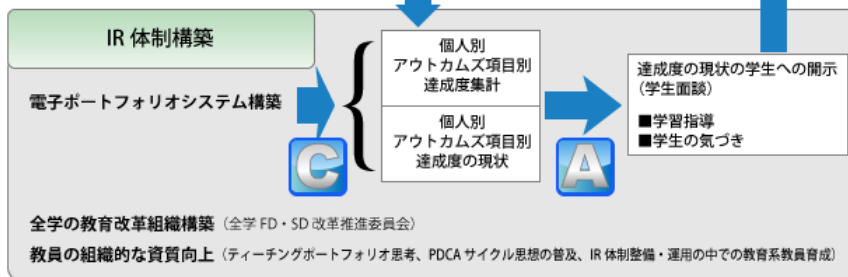
ティーチングポートフォリオ（教育業績ファイル）試行による教員の教育力向上と、PDCA による教育の質保証システムの思想の普及活動と、その実践活動の実施



1. 三つの方針（ポリシー）の明確化・具体化



2. 全学的な教学管理体制整備



工学リベラルアーツ教育を軸とした体系的カリキュラム

